

安全データシート

ドデカ - 1 - エン

改訂日: 2024-01-29 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : ドデカ - 1 - エン
CB番号 : CB5403385
CAS : 112-41-4
同義語 : ドデカ - 1 - エン

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 樹脂原料, エポキシイドアミン・オキシアルコール・合成脂肪酸原料, メルカプタン原料
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 400-158-6606

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H23.1.31、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

物理化学的危険性

引火性液体 区分4

健康に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 区分1

皮膚腐食性・刺激性 区分2

環境に対する有害性

注) 上記で区分の記載がない危険有害性は政府向けガイダンス文書で規定された[分類対象外]、[区分外]または[分類できない]に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認する必要がある。

<環境分類実施日に関する情報>

水生環境慢性有害性 区分1

水生環境急性有害性 区分1

ラベル要素

絵表示又はシンボル

GHS08

注意喚起語

危険

危険有害性情報

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

水生生物に非常に強い毒性

飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ

皮膚刺激

可燃性液体

注意書き

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託すること。

【廃棄】

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

【保管】

漏出物を回収すること。

無理に吐かせないこと。

飲み込んだ場合:直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で優しく洗うこと。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

火災の場合:適切な消火方法をとること。

【応急措置】

環境への放出を避けること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。

炎や高温のものから遠ざけること。

【安全対策】

3. 組成及び成分情報

化学名又は一般名	: ドデカ-1-エン
別名	: 1-ドデセン、(1-Dodecene)、 α -ドデシレン、(alpha-Dodecylene)、アダセン12、(Adacene-12)
分子式(分子量)	: C ₁₂ H ₂₄ (168.32)
CAS番号	: 112-41-4
官報公示整理番号(化審法・安衛法)	: (2)-27
分類に寄与する不純物及び安定化添加	: データなし
純度又は濃度範囲	: 100%

4. 応急措置

吸入した場合

気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚刺激が生じた場合:医師の診断、手当てを受けること。

多量の水と石鹸で優しく洗うこと。

眼に入った場合

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

水で数分間注意深く洗うこと。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないこと。

直ちに医師に連絡すること。

予想される急性症状及び遅発性症状

経口摂取：データなし

眼：データなし

皮膚：皮膚の乾燥

吸入：データなし

最も重要な兆候及び症状

データなし

応急措置をする者の保護

データなし

医師に対する特別注意事項

データなし

5. 火災時の措置

消火剤

泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤

データなし。

特有の危険有害性

火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

消火後再び発火するおそれがある。

引火性の高い液体および蒸気。

特有の消火方法

安全に対処できるならば着火源を除去すること。

容器が熱に晒されているときは、移動しない。

危険でなければ火災区域から容器を移動する。

消火を行う者の保護

適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急措置

密閉された場所に立入る前に換気する。

関係者以外の立入りを禁止する。

直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。

全ての着火源を取り除く。

環境に対する注意事項

環境に放出しないこと。

回収・中和

不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。

封じ込め及び浄化方法・機材

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

消防法の規制に従う。

局所排気・全体換気

『8.ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項

適切な保護手袋を着用すること。

取扱い後は手をよく洗うこと。

適切な保護手袋、保護面を着用すること。

炎や高温のものから遠ざけること。

接触回避

10項に示す混触危険物質との接触を回避する。

保管

技術的対策

消防法の規制に従う。

保管条件

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。

容器包装材料

データなし。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

適切な保護手袋を着用すること。

眼の保護具

適切な眼の保護具を着用すること。

皮膚及び身体の保護具

適切な保護衣を着用すること。

衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状	液体
色	無色
臭い	穏やかで心地よい臭い
pH	データなし
データなし	
データなし	
データなし	
1.72 sq mm/s (20 °C) : HSDB (2002)	
データなし	

log Pow. 6.1 : ICSC (2004)

エタノール、エチルエーテル、アセトンに溶解 : HSDB (2002)

0.113 mg/L : SRC (Access on Jun. 2010)

0.8 (water = 1)(20 °C/4 °C) : ICSC (2004) (0.7584 g/cm³ : Lide (90th, 2009))

データなし

5.81 (air = 1) : ICSC (2004)

0.159 mmHg (25 °C) : Howard (1997)

データなし

データなし

225 °C : ICSC (2004)

77 °C (CC) : ICSC (2004)

213.8 °C : Lide (90th, 2009)

-35.2 °C : Lide (90th, 2009)

融点・凝固点

-35.2 °C : Lide (90th, 2009)

沸点、初留点及び沸騰範囲

213.8 °C : Lide (90th, 2009)

引火点

77 °C (CC) : ICSC (2004)

自然発火温度

225 °C : ICSC (2004)

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.159 mmHg (25 °C) : Howard (1997)

蒸気密度

5.81 (air = 1) : ICSC (2004)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

0.8 (water = 1)(20 °C/4 °C) : ICSC (2004) (0.7584 g/cm³ : Lide (90th, 2009))

溶解度

エタノール、エチルエーテル、アセトンに溶解 : HSDB (2002)

0.113 mg/L : SRC (Access on Jun. 2010)

オクタノール・水分配係数

log Pow: 6.1 : ICSC (2004)

分解温度

データなし

粘度

1.72 sq mm/s (20 °C) : HSDB (2002)

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

安定性

法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる

危険有害反応可能性

強力な酸化剤、ハロゲン、無機酸と反応する。ゴム、塗料、被覆材料を侵す。

避けるべき条件

データなし

混触危険物質

強力な酸化剤、ハロゲン、無機酸

危険有害な分解生成物

データなし

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットLD50値:> 10000 mg/kg(SIDS (2000))。 (GHS分類:区分外)

経皮

ラットLD50値:> 10000 mg/kg(IUCLID (2000))。(GHS分類:区分外)

吸入

吸入(ミスト): データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入(蒸気): データなし。(GHS分類:分類できない)

吸入(ガス): GHSの定義における液体である。(GHS分類:分類対象外)

皮膚腐食性・刺激性

ウサギを用いたドレイズ試験(OECD TG 404: GLP)において腐食性は認められず、中等度から重度の紅斑と軽度から重度の浮腫がみられたが、14日目迄に消失し、皮膚一次刺激指数は4.67であった(SIDS (2000))。(GHS分類:区分2)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギを用いた試験で刺激性なし(not an eye irritant)との結果(SIDS (2000))がある。(GHS分類:区分外)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性:モルモットを用いたビューラー試験で感作性なし(not sensitizing)(IUCLID (2000))。(GHS分類:分類できない)

呼吸器感作性:データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖細胞変異原性

エームス試験で陰性(SIDS (2000))、ラット肝細胞を用いた染色体異常試験で陰性(SIDS (2000))。(GHS分類:in vivo 試験のデータがなく分類できない。)

発がん性

データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖毒性

データなし。(GHS分類:分類できない)

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性(急性有害性)

甲殻類(オオミジンコ)による48時間EC50 = 0.38 mg/L(環境庁生態影響試験, 1999)である。(GHS分類:区分1)

水生環境有害性(長期間有害性)

急性毒性区分1であり、急速分解性に関する適切なデータがない。(GHS分類:区分1)

オゾン層への有害性

当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(GHS分類:分類できない)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

14. 輸送上の注意

該当の有無は製品によっても異なる場合がある。法規に則った試験の情報に基づく修正の必要がある。

国連番号

特定できず

国際規制

海上規制情報

特定できず

国際規制

航空規制情報

特定できず

国内規制

陸上規制情報

消防法の規定に従う。

海上規制情報

特定できず

航空規制情報

特定できず

特別安全対策

重量物を上積みしない。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号

-

15. 適用法令

化審法

第3種監視化学物質(法第2条第6項)(政令番号:3監-268)

海洋汚染防止法

有害液体物質(Y類物質)(施行令別表第1)

消防法

第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体(法第2条第7項危険物別表第1)

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【14】 Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

【13】 IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>

【12】 IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>

【11】 HSDB - 有害物質データベース、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>

【10】 有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>

【9】 ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>

【8】 eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>

[pageID=0&request_locale=en](#)

【7】 ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>

【6】 ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>

【5】 カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>

【4】 NITE化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) <https://www.nite.go.jp/>

【3】 化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法) <https://www.chemicoco.env.go.jp>

【2】 化学物質審査規制法 (化審法) <https://www.env.go.jp>

【1】 労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。